

第8回渋谷区基本構想等審議会 議事概要

【日時】 平成28年6月28日(火) 午後3時～午後5時

【場所】 渋谷ヒカリエ8階 防災センター会議室

【出席者】 ■委員 (順不同、敬称略)

- ・ 学識経験者：伊香賀俊治、市川一宏、市川宏雄、乙武洋匡、神長美津子、河原和夫、為末大
- ・ 地域団体代表：岩田利延、新實晃、福田和男、丸山多喜子、森下利江、渡邊功
- ・ 公募区民：越後大作、大西岳之、川邊真代、財津宜史、住井美由紀、吉田翔子

■区

- ・ 幹事団：澤田副区長
- ・ 事務局：星野経営企画部長、佐藤経営企画課長、山崎基本構想担当課長
- ・ オブザーバー：北本英光(株)電通ダイバーシティ・ラボ チーフコミュニケーションデザイナー

【会議公開可否】 公開

【傍聴人】 9人

【会議次第】 1. 審議

- (1) 基本構想答申(素案)について
- (2) 基本構想の背景、価値観及びスローガンについて
- (3) カテゴリ別未来ビジョンについて
- (4) 長期基本計画大綱について

2. 次回に向けた連絡等

【事前配布資料】 ○渋谷区基本構想等審議会答申(素案)

【当日配布資料】 ○次第

- 審議会議論の補足等ご意見ご記入用紙
- 「委員からのご意見」(1名)
- 平成28年度 幹事団・事務局名簿
- 事前配布資料差し替え(5枚)

【議事要旨】

1. 審議

■事務局

本日はお忙しいところご出席いただきまして本当にありがとうございます。どうぞよろしく願いいいたします。先ほどご案内いたしましたけれども、発言できなかった場合を想定いたしまして、ご意見ご記入シートをご用意いたしておりますので、そちらをご利用いただきながらお願いしたいと存じます。それでは、これより第8回渋谷区基本構想等審議会を開催いたします。これからの進行は会長にお願いいたします。よろしく申し上げます。

■会長

それではここより私の方で進行をさせていただきます。本日は欠席委員が1名というご連絡をいただいております。それではただ今から議事に入りますけれども、まず本日の審議の進め方について事務局から説明をお願いします。

■事務局

それではご説明させていただきます。本日はこれまでの7回の審議を踏まえまして、基本構想等審議会の答申の素案をご提示致しまして、その内容についてご審議をいただくのが目的でございます。17日に、文書化する役割を持つ小委員会を開催いたしまして、事前に素案の内容についてご審議を頂いております。その頂いたご意見を踏まえて修正を加えたものが本日の資料となっております。審議では次第でございます順番で、内容を事務局からご説明いたしまして、順次ご審議をいただくという形で進行させていただく予定でございます。どうぞよろしくお願い致します。

(1) 基本構想答申（素案）について

■会長

それでは、審議に入りたいと思います。まず、議題1「基本構想答申（素案）の構成」についての審議となりますので、事務局から資料の説明をお願いいたします。

■事務局

(事務局より資料「渋谷区基本構想等審議会答申(素案)」の「基本構想答申(素案)について」を説明)

■会長

ありがとうございました。今、導入としての説明がありまして、本日これから中身に入っていくわけですが、議題2「基本構想の背景、価値観及びスローガン」の説明ですけれども、該当するページは4ページから7ページ。これにつきまして事務局からの説明をお願いします。

(2) 基本構想の背景、価値観及びスローガンについて

■事務局

(事務局より資料「渋谷区基本構想等審議会答申(素案)」の「基本構想の背景、価値観及びスローガンについて」を説明)

■会長

ありがとうございました。ただいま事務局より基本構想の背景、価値観等についてご説明いただきました。これにつきまして、ご意見、ご質問をお願いしたいと思います。

■委員

とても良いかなという感じがしました。

■委員

7ページの「渋谷区の未来像(宣言文)」なんですが、「渋谷区」あるいは「渋谷」という2種類の表現が出てくるのが3箇所あります。最初が「ちがいを ちからに 変える街。渋谷区」と、次が「渋谷」、そして最後が「渋谷区」。これは区を付けるか付けないか使い分けていると考えて良いのですか。

■会長

事務局お願いします。

■事務局

全体の中で位置づけを明らかにするために表現を統一させるというよりは、意味合いを伝えていくという意図です。「渋谷が」というところを、「渋谷区が」と変更していくことも皆様のご意見の中で修正加えていける部分だと考えております。

■委員

私自身は非常に響き良いような、滑らかなイメージな気がします。

■委員

スローガンについてですが、スッキリとハッキリとしていて、すごく良いと思うのですが、「ちがいをちからに変える街。」のところはどのように変えていくのか、という「どのような」の部分が入っていた方が分かりやすいのではないかと思います。スローガンだから手短かにハッキリ、スッキリしていた方が良いという風にも思いますけれども、これだけだと、どのように変えていくのか、というのが分かりづらいように思います。例えば、「ちがいをちからに『誰もが誇りをもって暮らせる』街。渋谷区」であるとか、『『一人残らず人生を謳歌できる』街。渋谷区』であるとか、どのような街を目指すのか具体的な内容が「渋谷区の未来像(宣言文)」中に表現されているので、そこから引用して、どう変えるかが分かる方が良いかなというのが私の意見でございます。

■会長

何か事務局からありませんか。

■事務局

スローガンとしては端的に、「ちがいをちからに変える街」と掲げておりますが、その次のページの「渋谷区の未来像（宣言文）」の中に、どのように変えるのかその意味合いをお伝えできるように具体的な言葉を記載し、これら2つセットで意図をご理解いただけたらというのが私共の考えでございます。ひとまずそういった形での構成にさせていただいております。

■委員

全体については大変分かりやすく、インパクトの強い文章になっていると思います。表現についてなんですけれど、7ページの「渋谷区の未来像（宣言文）」について、意味的にはそうなんですけれども、2段落目のところに「この街に集まってくる、ありとあらゆる種類の」とありますが、何かこのまま行くと次の行の「人間を」というところが、「ありとあらゆる種類の人間を」という表現が繋がってくると違和感があります。もしかしたら、この街に集まってくる「ありとあらゆる人間を」「ありとあらゆる仕事を、」「ありとあらゆる価値観を、」ということなんでしょうけれども、「種類の人間」と続くと大変違和感がございます。

■会長

何か事務局ございますか。

■事務局

ご意見を頂いたところでございますので、修正の方も改めてさせていただきたいと存じます。

■会長

「あらゆる種類」というのは何となく違和感がありますね。こなれた表現にした方が良くもありませんね。

■委員

5 ページ目の「3 基本構想のもとになる価値観」の①に、「ロンドン、パリ、ニューヨークなどと並ぶ」という表記ですが、過去の審議会でも議論があったのかもしれませんが、渋谷とロンドン・パリを単純に並べると多分違和感を覚える方が多いかなと思います。ロンドンのどことか、パリのどこ、という解説が必要なのは。本文の内容は良いとしても、やはり渋谷だけで完結するわけではなく、東京としてロンドン・パリ・ニューヨークと張り合うんだと思うので、解説で結構だと思いが必要なのではないでしょうか。

■会長

私の意見を言っておくと、これは区長が言っているのです。私はこれに対して委員と同じ意見で、

具体的にどこの場所なのか、ロンドンだったらどの辺だろうとか、例えばニューヨークだったらチェルシーかあるいはハドソンヤードの方だとか、ロンドン・パリ・ニューヨークにおいて区レベルの規模にまで絞って記載できる場所は大体あります。それをどこにするかという議論はきっと残るでしょうけれど、どこなのか皆さんが知っている中で記載してということです。

■委員

解説なり何なり必要だと思います。

■会長

ロンドンだと、比較的シティの東側あたりやウエストエンドでも良いのだが。これはもう一回検討してください。ロンドン・パリ・ニューヨークの何とか、って言わないと横並びにするのはおかしいわけでしょう。片方が都市で、片方が区なので、これは要検討ということによろしいですか、事務局。

■事務局

了解いたしました。

■委員

標語はスッキリしていて「ちがいをちからに変える街。」っていうのは非常に気に入っています。5 ページ目の「3 基本構想のもとになる価値観」①「強烈な地域性とを兼ね備えてゆくこと。」という一文の「強烈な地域性」というのは難しいですよ。インパクトはあるけれども、そんな強烈な地域性というものが求められるものなのかというのが気になりました。

それから 7 ページ目。皆さんが仰ったご意見はその通りだと思うんですけども、3 段落目に「ちがう、ということは、かけがえない。」とありますが、「ちがう」と「ちがい」とは意味が違うんですよ、多分。「ちがう」というと、この文章だけが独り歩きした場合に、違う捉え方をされるんじゃないかと。「ちがう」と「ちがい」の言葉の使い分けに少し気を付けた方が良いのではないかなと思いました。「ちがう」というのは、間違うという意味のイメージも含むんで、その点は注意した方が良いかなと思いました。以上です。

■会長

きっと「ちがう」にはバリエーションがあって、違いを認めるとか、何か意味合いがあるんですよ。その辺が分かれば良いんですけどね。このままだと確かに「違う」と誤解される。

■委員

中身なんですけれども、スローガン、宣言文、ともに感銘を受けながら拝見させていただきました。特にスローガンは素晴らしいものに仕上がっているのではないのかなと個人的には感じました。宣言文なんですけれども、全体としては非常に素晴らしいものになっているかとは思いますが、1 点気になっているのが、第 2 段落目の「バラバラ」という言葉です。言わんとしているところは

分かるんですけども、やはりこの渋谷区が目指そうとしているところは、それぞれ違いはあれど、最終的には融和をしていく、というところ目指していくんだと思うんですね。それが「バラバラ」というワードを使ってしまうことで、最後まで融和しないんじゃないかという、マイナスなイメージを与えかねないのかな、と思います。せめて「それらが多様であることを」とか「それらが様々であることを」というぐらいの表現にとどめた方が、割とスッキリ意味を違えずに読んで頂ける文章になるのかなと感じました。

■会長

ありがとうございました。

■委員

質問なんですけれども、「スローガン」と「宣言文」っていうのは運用というか、どういうふう
に活用されるのでしょうか。例えば、区役所にドンと貼りだすとか、お披露目の場とか、この
基本構想の本で出てくるだけなのか、使い道によってだいぶ読み方も見方も変わってくると思
うんですけど。

あと、最後の一文の「どこよりも力強く」の最後って「。」はあえてないんですか。

■事務局

最後の「力強く」というのは、わざと「。」をつけてなくて、スッと拮がりをもたせた感じのイ
メージにするためにしております。やはり「ちがいをちからに変える街。」というスローガンを審
議会から答申していただく形になった時に、PR していくことになるわけですが、その中で内容を
やはりしっかりと伝えるということで、基本的には「スローガン」と「宣言文」の2つをセットと
言いますか、一つの組み合わせとしてアピールしていくというのを考えてございます。これから
PR については様々な手法を考えていくので、まだまだ先の話ですけども、やはり両方をセット
で理解して頂いた方が伝わるのかなと考えているところでございます。

■会長

要は、一応はセットだけれども、場合によってはスローガンだけとか、必要があればこちらも使
う、ということだと思いますけれども。

■委員

私もこのスローガンはとても良いなと思ったんですけども、宣言文の一番最後の「世界のど
こよりも素敵に。」に少し違和感があって、渋谷区民だけでなく、渋谷区を訪れる人も含めて宣言
文を考えた時に、必ずしも誰もにとって渋谷区がナンバー1 である必要もなく、逆にそのまちの
あり方で、4 段落目の「愛せる場所と仲間を、誰もがもてる街へ。」だとか、それぐらいのスタ
ンスがほど良いのかなと私は感じています。そういう意味で言うと一番最後の一文がなくても十分
に訴えたいことは伝わるかなと思いました。

■会長

ありがとうございました。これはさっき議論があったけれども、5ページの「3基本構想のもとになる価値観」の①「渋谷区はどこへ向かうのか」というのが、渋谷区が目指すのは「ロンドン・パリ・ニューヨークなどと並ぶ」ような、言わば世界トップクラスだと言うのが導入にあるので、それを受けて最後にそれを言ったということで良いのではないのでしょうか。メリハリで言うと色々なパターンあるけれども、世界を誇れるところにしたい、と。そうすれば渋谷区民も誇りを持てるんだと、そんなニュアンスかと思っているんですけどもね。今日いくつかご意見が出ていますので、事務局でお話いただいても良いでしょう。他にどなたかご意見ございますか。

■委員

私はこのスローガンがすごい好きで、「ちがいをちからに」というところがすごいインパクトがあって良いなと思ったんですが、この宣言文は長くありませんか。ボリューム的にどこで読ませるのかにもよると思うんですけども、ちょっと長いなと思って見ていました。多分、削って削って、この文章になっているんだろうとは思いますが、具体的なところを細かく言っていて、最後の段落もちょっとしつこいかなと。最初のところと重複するところもあるのかな、と読んでいて印象を受けたので、もし短くできるんだしたら、もう少し短い方が良いのではないかと思いました。

■会長

今の話は、宣言文のはじめに「渋谷は世界を変える。いや、『渋谷が』世界を変える。」としつこく言っているから今更また言うな、ということですね。

■委員

今のお話に続けてなんですけど、渋谷区に住まわれている方にダイバーシティがあるとした場合、英語版といくつかの国の言葉になっている必要があると思うんですけども。中国語版と英語版はあった方が良くないかと思いき、頭で訳していたんですけど、英語になると、韻を踏むのは難しいのかなとか思いながら、それもできたら次回見たいなと思います。

■会長

今の話をまとめると、まず、第2段落目の「ありとあらゆる種類」をこなれた言い方に修正するというのと、その一文の3行後の「バラバラ」という表現をもうちょっと品よくなりませんか。それから次の段落の「ちがう」と「ちがい」の意味の捉え方に誤解がない表現が良いんじゃないかと。それから一番最後の段落で「世界のどこよりも素敵に。」と言っていて、一番初めの段落に「世界を変える」と言って、中身は「素敵」って言ってるから違うかもしれないが、全体が長いんじゃないかと言う意見もありました。せつかく良いことを一杯言っても、一杯あるとどれが重要か分からなくなっちゃうから短くすると効果あるんじゃないかというご提案かと思えます。そのあたりがこれからの作業ということでよろしいですかね。大体よろしゅうございますか。それでは、もう一度今日出ている意見を踏まえて、どうするかご検討ください。続いて議題3の「カテゴリ別未来ビ

ジョン」、これについて説明をお願い致します。

(3) カテゴリ別未来ビジョンについて

■事務局

それでは7つのカテゴリの順番にご説明して参りたいと考えております。全体のトーンをご理解頂けますように、まずは区民の生活における暮らしやすさを向上させる項目として「A 子育て・教育・生涯学習」、「B 福祉」、「C 健康・スポーツ」これを一塊として、続いて区の基盤整備としての「D 防災・安全・環境・エネルギー」、「E 空間とコミュニティのデザイン」を一つとして、さらにこれから渋谷区を進展、発展させていく項目としての「F 文化」と「G 産業振興」、こちらをまとめてご説明するというので、3部に分けてご説明させて頂きたいと考えております。構成については、各ビジョン全て共通でございますが、9ページをご覧いただきながら説明させていただきます。タイトルと将来のビジョンを明確にしまして、黒い■の部分でより分かりやすい説明を加えるという形の構成にしております。全て同じ構成になってございますのでご承知おきいただきたいと存じます。

① 「A 子育て・教育・生涯学習」、「B 福祉」、「C 健康・スポーツ」

■事務局

(事務局より資料「渋谷区基本構想等審議会答申(素案)」の「カテゴリ別未来ビジョン「A 子育て・教育・生涯学習」、「B 福祉」、「C 健康・スポーツ」」を説明)

■会長

ありがとうございました。「子育て・教育・生涯学習」が1つ目、2つ目が「福祉」、3つ目が「健康スポーツ」のご説明がございました。この文章の元になっている詳細というのは、今まで審議会で議論してまいりました「カテゴリ別の施策体系」というのが18ページ以降にございまして、そこを整合しています。細かい中身は後の「カテゴリ別の施策体系」にあるのですが、その上段の考え方として、基本構想として中身を簡単に1ページにしているということでございます。それではご意見、ご質問がありましたらお願い致します。

■委員

3点ほどあります。まず9ページですけれども一つ目の「■子供はつまり、未来です。」の部分で、「先進的な幼児教育を追及していきます」とあるのですけれども、「幼児教育」「学校教育の充実」とか18ページのカテゴリ別施策体系案には分けてあるのが、ここでは「幼児教育」というのが特筆されてしまっているの、ここは「教育」で良いかという感じがしました。2点目は「福祉」の「■つながりをつくる、という福祉。」の部分で、「民間企業やNPOとも手を組みながら」とあるが、これを受けた文章が「こうしたつながりは、認知症の高齢者」になっているため、「福祉＝認知症の高齢者」と捉えてしまいます。「福祉」の対象を孤立している児童等にも広げるのであれば、ここで「認知症の高齢者」と特定してしまうとピンポイントの対象に向けた書きぶりになってしまうかなという印象がありました。

あと、「健康・スポーツ」のカテゴリですが、「■スポーツに関われない人は、いません。」というところで、「これによって、誰もがプレーヤーとして、あるいは観客として、」とあるのですが、サッカーではよく「サポーター」という表現をするのですが、プレーヤーに対するトレーナーであったり、クラブを支える人であったりを指します。プレーヤーと観客以外にも場所を提供する人とか、物を提供する人たちも含めていただきたいので、ここはサッカーでいう「サポーター」というすべてをサポートする人たちを意味する表現を入れていただくと分かりやすいかと思いました。

■会長

ありがとうございました。何か事務局からございますか。みんなもっともな指摘だと思うのですけれども。

■事務局

ごもっともなご指摘でございまして、確かに幼児教育だけでなく学校教育も当然充実させるのが長期基本計画の方の体系にも書いていることとございます。そういった整合をとることも非常に大切なことだと思いますので、ご意見を修正の方に活かしていきたいと考えてございます。

■会長

他にどなたか如何でしょうか。

■委員

「健康・スポーツ」のところなのですが、前にも審議会であった議論だと思うのですが、渋谷は他と何が違うのですかということが重要なのかなという感じがします。その点でパッと見た印象なのですが、プロスポーツを強く推進していきます、オリンピック選手を生んでいきますという感じのトーンは記載がない気がします。私は、この方向性の方が良いかなという、賛成の方なのですが、どうしても、現状の記載にトップスポーツについても加筆しようとする、どこの自治体でも出しているものに見えてくる気がする、現状の記載のままとにかくスポーツを楽しむ方向性であって、スポーツを強化してトップを目指していく方向性ではないのだよ、というくらい明確に打ち出した方が良いかなと思います。つまり、全部の要素を入れていくと、努力目標と変わらないコンセプトになる気がする、スローガンにある「ちがいをちからに変える」という点からすると、何となくスポーツに関しては市民型で、トップ型ではないのだよ、みたいな方向性のトーンの方が良いのかなと思いました。

■会長

ありがとうございました。これは事務局で考えていただいてもよろしいですか。他にどなたかご意見はありますか。

■委員

2点あります。1点目が10ページの「福祉」ですけれども、最初の■の内容は福祉でまちづくり

の概念だと思います。もう一つの■は福祉のまちづくりという概念でまとめられていると思うのですが、先ほど委員が仰ったように、福祉のまちづくりですと認知症の高齢者だけではなく、障害を持たれた方や孤立なさっている方を含めないと、全ての意味を凝縮する結論部分が、ただ文章が短縮されてしまっていると思います。それから用語についてですが、「福祉は、福祉を超えられるか。」のところ少し違和感があります。別に福祉を超えなくても良いのですが、どういう福祉にしたいのかということが大きなテーマになるので、そこを明確にしておくことが必要だと思います。

あと9ページの「子育て・教育・生涯学習」ですが、二つ目の■ですが、「この世界は」という表現で、どういう世界を指しているのか大体意図は通じますか。ここはどのような表現が良いのか結論が出ないので、この世界は」今まで具体的に議論されていたけれども、これが指しているのは「学びの世界」なのですか。「あの世界」なのですかね、「この世界」なのですかね。「この世界」という時に、どういう世界を指すのかと違和感を感じたのですが、これで良いと皆さんが仰るのなら僕も良いです。微妙なんです。「この世界」というのがちょっと気になりました。以上です。

■会長

何か代わりに良い言葉がありますか。

■委員

可能性、くらいですか。

■会長

これは恐らく流れで作っているのでしょうか。

■委員

小委員会でも発言したのですが、「生きる世界」はどうでしょうか。生きる世界は、小さい子供にとっても身の回りのことが全て学びの対象であるし、老人にとっても身の回りのことなので、「生きる世界」というのは非常に具体的かと思います。

■会長

「場所」を言っているのか「時間」を言っているのか。時間は言っていないのか、人生全部を言っているのか、世界を言っているのか。どのような感じか。

■委員

人生全部ではないでしょうか。そういう風に単純に受け取っていました。

■会長

やはり人生系の世界ですね。人生は学びというと分かりやすい。この世界というのはどこの世

界ですか。

■事務局

ここはもう一度精査させていただきます。

■会長

お願いします。

■委員

「この世界は、学び」というところは、確かにこの世か、あの世か、というようなこともあります。現実の渋谷は学びにあふれたまちだとは思いますが、例えば、放送大学のサテライトキャンパスが渋谷にあったり、社会人向けの色々な学びの機関、それから専門教育機関がものすごく立地しているの、23 区の中では多分トップクラスだと思います。そういう意味では、この現実世界というか、これを学びであふれている世界だと、ある意味ではしっくり、「この現実世界」を受け入れられたんです。

■会長

「この世界」というと渋谷でなくて世界全体ということになる。もうちょっとエリア的な発想だったらどうかと思うのですが、「ここは」とか、「この」とか。世界と言うと世界中ですよ、普通は。渋谷ではない。あの世かこの世で言うと、この世ですよ。

■会長

他に何か。

■委員

2点あります。1点が10ページの「福祉」ですが、最初の段落「児童、高齢者、障害者、生活困窮者、認知症の人など、さまざまな人がいますが、この多様な個性こそが、社会を豊かに彩る不可欠な要素なのです。」という文章についてです。ダイバーシティであるということを強く打ち出したいというメッセージだとは思いますが、「児童、高齢者」くらいまでは良いかと思うんですが、「障害者、生活困窮者、認知症」というのは一般的に考えれば皆さんがなりたいたくない種類のカテゴリで、それを個性とか社会を豊かに彩る不可欠な要素と言う風に言い切ってしまうことには若干違和感があるかなと思いました。もちろん、将来的にそういう状況になっても豊かに生きていける社会を目指すんだというメッセージだとは思いますが、そういうメッセージがストレートに伝わるようにした方が良くないと。9ページの「子育て・教育・生涯学習」ですが、最初の段落に「人種・性別・年齢・障害」という記載がありますが、このあたりのことを個性であったり、豊かに彩る不可欠な要素というのは割と皆さんすんなり読めると思うんですが、生活困窮者や認知症が豊かに彩る不可欠な要素というのは違和感があるかなと感じたのが1点目です。

2点目は、重箱の隅をつついてしまうような指摘になってしまうんですけども、9ページの「人種・性別・年齢・障害を問わず」というところで、人種・性別・年齢に関してはどなたも何かしらのカテゴリに所属しています。例えば、人種であれば何人とか、性別であれば男性、女性、またはその他とか、年齢であれば何歳というカテゴリがあるかと思うんですが、障害の場合は障害がない方もいるので、「障害の有無を問わず」と言う風に補った方がより正確な日本語になるのかなと思いました。以上です。

■会長

ありがとうございました。10ページの「福祉」の初めの部分ですね。「児童、高齢者」という普通の話と、「障害者、生活困窮者、認知症」という特殊な話が横並びになっているのは如何なものか、と。それが不可欠と言われたらそれはおかしいだろう、となるからここは要検討ですね。他に、障害の有無は関係なしにという一文を入れた方が良いでしょうね。あと他に如何でしょうか。

■委員

委員の最初のご発言の中に幼児教育と学校教育のお話があったので、私なりの意見ですが参考にしていただければと思います。カテゴリ別の施策体系案で、幼児教育の充実と、学校教育の充実の二つが並んでいるので、両方とも含まれます。幼児教育の一部は学校教育の中に含まれるし、というような見方が出来るのかなと思います。多分、このカテゴリ別の施策体系案の「①幼児教育の充実」というのは、中身からすると、就学前の教育が小学校教育をいかに円滑につながっていくのかとか、家庭から所謂幼稚園や保育所における集団の保育という子育てと、不連続の面をどう円滑にするのかというような問題をこの中で扱っているの、それを乳幼児の保育教育の充実の方が中身からすると分かりやすいのかな、と。

■会長

ここはさっきあった部分なので、もうちょっと対応させて下さい。あと他は如何。

■委員

10ページの「福祉」の2つ目の■で、下から3行目ですが、「民間企業やNPOとも手を組みながらととのえていきたい。」とあるが、「手を組む」だとちょっと強いような印象があるので、「手を携える」とかの表現の方が柔らかいのではないかと。上のつながりともリンクするかなと思う。

■会長

いくつか過激な表現もあるので全体を通して見てもらうということで。あと世の中で使われている言葉かどうかですね。

■委員

1点だけ。11ページの「健康・スポーツ」の1つ目の■で「■暮らすことは、動くことだから。」は、すごく新しいコンセプトだなと思っていて、多分多くの人に感動を与えるんじゃないかなと思

うんですけれども、内容のところ「多彩な表情をもつ渋谷区の地形・地理を運動の機会として整備していきますというところで、何を言っているのかな、と。オランダみたいな平らなところだと自転車競技みたいなものが段々活発化していくように、渋谷も谷が多いとか、具体的に書かないと分かりにくいかな、そこまで想像できないかな、と思ったのが1点です。

二つ目の■の最後に「祝祭性と高揚感をもたらすのです。」という、最後のトーンが今までのトーンと全然違い、主観的に訴えてきたものがいきなり渋谷のためにこれをもたらすのですと客観的に書かれても何かよく分からないと思いました。

■会長

ありがとうございました。これも要検討ということですかね。大体よろしいですか。他に何かありますか。

■委員

10ページの「福祉」で、の「■福祉は、福祉を超えられるか。」の内容の下から2行目の「福祉とは何か。サービス、産業、文化創造のヒントになる福祉とは何か。」とありますが、サービスは意味が分からないですが置いておきます。例えば、産業、文化創造のように福祉に関係がありそうなカテゴリについて記載するのならば、「空間とコミュニティ」も入れておいた方が良いような感じがするんですよ。空間とコミュニティの創造、みたいな表現を。

■会長

福祉が持っている多様なアウトプットの中に産業、文化だけじゃなくて空間も入れてとのご意見です。これも検討ですね。大体よろしゅうございますか。また後で時間があったら戻ります。

続いて、次のテーマ「防災・安全・環境・エネルギー」と「空間とコミュニティのデザイン」、これについて、事務局からの説明をお願いします。

② 「D 防災・安全・環境・エネルギー」、「E 空間とコミュニティのデザイン」

■事務局

(事務局より資料「渋谷区基本構想等審議会答申(素案)」の「カテゴリ別未来ビジョン「D 防災・安全・環境・エネルギー」、「E 空間とコミュニティのデザイン」」を説明)

■会長

ありがとうございました。この2つにつきましてご意見ご質問があればお願いします。

■委員

2点ばかり感想があります。1点目が12ページの「防災・安全・環境・エネルギー」の「しなやかでタフな街へ」というところで、中身は非常に納得できるものなんです。一方、21ページの具体的な施策としての施策体系の方が必ずしもうまくリンクしていない感じもあります。21ページはまた別機会にやるのでしたっけ。

■会長

この後やります。

■委員

特にその時に申し上げたいと思いますが、緑と水辺空間の創出が「防災・安全・環境・エネルギー」の中に入っているんですけども、これはこの後に出てくる「空間とコミュニティのデザイン」にも非常に大きな関わりがあると思います。特に、渋谷川の再整備はもう本当に区議会の皆さんなんかも大変な努力で実現したもので、多分渋谷のような大都会の中できれいな水が復活するなんていうのは画期的なことだと思います。防災上の意味があるかもしれませんが、もっと歩く人達とか区民の交流にもなっていくのかなと思うんですが、そこら辺の整理が必要かなと思う次第です。

■委員

非常に些末な部分で2点ございます。12ページの「防災・安全・環境・エネルギー」の「サステナビリティ」はカタカナ表記なんですけど、実はこういう表現もあります。英語の原音に近いと「サステナビリティ」で、小さい「イ」ではなく大きい「イ」なんですけど、日本は小さい「イ」をとってサステナビリティという表現を私はもっぱら使っている派なのですが、小さい「イ」を使うのは少し違和感を感じます。それと1つ目の■の「強い街」の内容の下から2行目「都市基盤設備だけではなく」は、「都市基盤整備だけでなく」と言う方が21ページのカテゴリ別の施策体系案との対応が取れているかなと思います。

■会長

まず「都市基盤設備」ではなく、これは都市基盤整備の間違い。「サステナビリティ」は確かに小さくするのではなく、普通大きい「イ」ですよ。 「サステナビリティ」って日本語では言っているから。これはどちらがより一般的か。

■委員

両方出回っているのは間違いはないんですけど、小さい「イ」もたくさん使われています。

■会長

原音に近いのは「サステナビリティ」ですね。これは研究してもらって。

水と緑についてカテゴリ別の施策体系案には入っているが基本構想には入っていない。これは恐らく次で良いんでしょうね。「空間とコミュニティ」で出てきます。

あと他にどなたか、お願いします。

■委員

12ページの「防災・安全・環境・エネルギー」の言葉の部分なんですけども、1つ目の■に「いかに柔軟に都市を回復させるか」ってあるが、柔軟に都市を回復させるのは良いですけど

も、柔軟にどうやってやるのかな、っていうのが良く分からなかったのと、あとそれと同じように下の部分の「こうした日常的なつながりを丁寧に整えていきます」の「丁寧」って、いらんんじゃないかなというイメージがありました。

後は2つ目の■なんですけれども、「なんらかの強制力ではなく」の「なんらか」って何なんだろうな、っていうのがモワモワってして違和感を感じました。

「空間とコミュニティのデザイン」のところで、「■渋谷には、いくつもの渋谷がある。」っていうと、やっぱ渋谷っていうイメージは「渋谷駅」のイメージがあります。恵比寿の人間からすると、渋谷区にはいくつもの渋谷があるってなると、空間のイメージがセンター街になってしまいます。「渋谷区」ってのがエリアで、「渋谷」って言われちゃうと「渋谷のセンター街」の話をしてるのかなとイメージを持つので、本町であつたり恵比寿であつたりも想像できる感じをお願いします。

■会長

「なんらかの強制力ではなく」っていうのはどこにありますか。

■委員

なんらかの、って何だろう。「行政」を指しているのでしょうか。

■会長

行政に押し着せられて言ってる。行政も言っているという難しいことになってしまう。災害が起こった時、いかに柔軟に都市を回復させるか、災害などの危険に見舞われたときとあるが、あまりにも1つの部分を限定してしまっている。まず災害が起きないように努力をして、起きたらどうするかっていう防災がセットになっていて、災害も同じで、災害だとか犯罪が起きないようにして、起きたらどうするかっていうセットになる必要があるんで、ここはだから要約してある。災害は起きる前も結構重要なので、そこの最初の2行は変えた方が良いというような気はしますけれどね。あとちょっと違和感があるのは、「強い街は、つながりが強い街」って、強い強いつてプロが作ったにしてはちょっとどうかなみたいな感じがするので、違う言葉使ったらどうですかね。恐らくここで言いたい強い街っていうのは、しなやかでタフを指していると思うので、そういう街を作るためには何のつながりって、人のつながりがなきゃいけないんで、「人の」がぴったり入るんでしょうね。ここはそのあたり含めて見ていただいて。あと他に如何でしょう。

■委員

13ページの「空間とコミュニティのデザイン」なんですけど、1つ目の■の内容で「区内には、多彩な表情を持った地域たち」って書いてあります。修正できていますか。「たち」を削るように指摘しましたが直っていますか。「地域たち」という言い方に違和感がある。あとは皆さんのご意見にそのまま賛成します。

■会長

これはあえて「たち」が入っている意味は何なんですかね。

■事務局

ご指摘を受けて「たち」を削ろうと思ったのですが、間に合わなくて申し訳ないです。外す方向では考えています。他に「たち」っていう記載があったところはすでに外してはあるんですけども、今回こちらは残ってしまいました。大変失礼しました。

■会長

「多彩な」を風情を持った地域の共同などと普通に言うので。「たち」が入っているのはどういう「たち」なのか、「たち」が良いかどうか分かりませんが。他はあと何かありますか。

さっき委員が言った「渋谷って言われると恵比寿じゃないんだ」っていうのは、結構重要なテーマで、そもそも渋谷区になっちゃってるから。エリアで言うと、「渋谷」というと「渋谷区」の方がなイメージしてしまうので、じゃあ本町は違う、恵比寿は違うとなるので、そこは全編を通してそういうことにならないような工夫はやっぱりあるでしょうね。だから、「渋谷」といって渋谷駅周辺をイメージさせちゃいけない時にはそういう言い方はしないとか、その工夫はおそらく全てに渡ってくるので、全編通してみる必要があると思います。あと他に如何でしょうか。

■委員

12 ページの「防災・安全・環境・エネルギー」のところで、「強い街は、つながりが強い街。」のところをもう少し渋谷っぽく書けないかな、と先ほどから考えていて、災害の防止ですか、実際に災害が起こった時にどうするかという時に、つながりはひとつ大事だと思うんですけども、自分が渋谷区民だった場合、全然渋谷区に住んでいない人が災害や犯罪にあって、それをどう助けてあげようと考えた時に大事なのって日常的な丁寧なつながりだけではなく、受け入れてあげようという意識だったり、そういうところも大事だと思います。何でしょう、つながりだけを強調するよりも、ここにももう少しダイバーシティじゃないですけども、それを受け入れる寛容性がありますとか、そういうトーンがあっても良いのかと思いました。

■会長

ここの黒い■の役割が災害と犯罪で、その防止、それから何か起きた時には、結局これは共助が元になっているのですから、共助のことを言っているということですよ。委員のご発言はちょっと違って、その根底における人々の考え方だと思うんです、恐らくはね。ただ、同じ共助やっても根底にそれがあればより良い人のつながりが作れるけれど、根底は共助の意識が弱ければそんなにならないということを行っていると思うので、ここに無理に入れなくても良いと思う。言葉として例えば、「安全や安心のもとになるのは、人と人の連携です。」、これだってとても重要なキーワードで、災害においてはコミュニティ崩壊している例をあげるとタワーマンションの同じ住民だとか、それから偶然来て居る人とか。人と人との連携なんですよね。だから受け入れる受け入れない話とはちょっと次元が違う。もちろん、受け入れなければいけませんけれどね。

■委員

つながりって言うと、今の事例だとソーシャルネットワークじゃないですけど、親しくならな

きやいけないみたいなトーンと言うか、印象を受けるので、それよりは普通に連携するとか協力するとか共助であるとか、そういったより淡泊な言葉の方が受け入れやすいかなと思う。

■会長

仲が良いも淡泊なんじゃないですか。このあたりヘディングに使う言葉と、中身との組み合わせですね。これも他とも全部共通ですけれどね。もう一回見ていただくということですね。他にどなたか。

■委員

13 ページの「空間とコミュニティ」の一番最後なんですけど、「世界中にファンができるように。」と、ここのところだけ語尾が他のところと違うんですよ。むしろ宣言文みたいな語尾になっていますので整えた方が良いのではないかと思います。

■会長

今までは、ですます調できているんですよ。「世界中にファンを作ります。」というのはどうですかね、流れとして。それも検討して。あと他如何でしょうか。

■委員

私の主観でしかないのかもしれないんですけど、「愛せる場所と仲間を、誰もがもてる街へ。」の2行目の「いずれにとっても、属したくなる「場所」と「仲間」がある街。」って、「属したくなる」という言葉が、わざとこういうザラッとした言葉を使っていらっしゃると思うんですけど、あんまり聞かない言葉だなとか、ピンとこないとか、何かこう従属するみたいな意味に聞こえるので、繋がりたいとか関わりたいとか、主観的に意思があるみたいな言葉の方が良いかなと思いました。

■会長

ここは自分のアイデンティティを持ちたいということを手早く言いたってことで、属すというと団体に属すとか、ちょっと特殊な言葉である。これも検討ということで。他いかがですか。

■委員

12 ページの「防災・安全・環境・エネルギー」で、つながりって言葉ですけど、よくよく考えると、いま絆って言葉がものすごく良く使われている中で、意図的に絆という言葉を使っていないのかな、っていう意思を感じてしまうんですけど。

逆に先ほどの発言で、あまり強すぎる絆って言うと本当に地縁・血縁をイメージするのとあるいはちょっと渋谷と合わないから、あえて絆を避けたというわけではないのですか。

■会長

絆を使わなかった何か理由がありますか。

■事務局

特に理由はないですけども、そうですね。思いつかなかったというわけではないのかもしれませんが、意図的に使っていないというわけではないですね。

■委員

パブコメでいかにも指摘されそうな言葉。

■会長

つながりよりも絆の方がきっと今は分かりやすいですよ。東北の地震があった時に絆という言葉を使っていたので、絆って言うと皆が分かるみたい。つながりと言うとちょっと独特な意味がありますからね。これも検討して頂くってことで。大体よろしゅうございますかね。

それでは続いて次のテーマであります「文化」と「産業振興」ですね。事務局からお願いします。

③「F 文化」「G 産業振興」

■事務局

(事務局より資料「渋谷区基本構想等審議会答申(素案)」の「カテゴリ別未来ビジョン「F 文化」「G 産業振興」を説明)

■会長

ありがとうございました。「文化・エンタテインメント」と「産業振興」ですね。ご意見、ご質問お願い致します。

■委員

2点申し上げたいのですが、14ページの「文化・エンタテインメント」のところで、「■ファッションの渋谷、音楽の渋谷。」とありますが、これ自身は全くその通りなんです、その他にも渋谷の文化はやっぱり特筆すべきところは一杯あるような気がします。例えば映像関係でいえば、ずっと東京国際映画祭を渋谷で開催していたんですけども、今は六本木に開催場所が移ってしまいましたけれども。渋谷区にはNHKさんがあたりとか、映像関係の文化はかなり良い線いっているでしょうし、最近では演劇関係もミュージカル含めてかなりのセットの立地もありますので、あえて2つに絞らなくて良いんじゃないかなというのの一つ。

もう一つは15ページの「産業振興」のところなんです。二つ目の「■産業が、観光をおもしろくします。」と。確かに、都市観光は渋谷の大きな魅力になっていると思うのですが、産業が観光をおもしろくするという表現がしっくりこない感じもします。観光が発展するとそれに引きずられて産業も発展するという側面もあります。例えば目黒区なんかは非常に身近ですけども、目黒川沿いに段々と観光客が増えて、飲食店あるいはそういう類の産業とかの雇用も増えているということもあり、産業と観光は相互関係にあるので、産業が観光をおもしろくしますという一方通行の表現はちょっと変えた方が良くないかなと思いました。

■会長

ありがとうございました。ファッションの渋谷、音楽の渋谷にしちゃうと限定されてしまうし、確かにこれからの可能性はやっぱりまだあるでしょうね。それから産業が観光をおもしろくします、というのは、何の産業か分からない。観光も産業なので。中小企業や個人商店という、これ何かありましたっけ説明が。

■事務局

例えば食というのが結構増えておりまして、渋谷ですとパン屋だけでも小さな商店がたくさんあって、それで楽しいツアーが組めるくらいの話があります。そのようなところを少しイメージした部分があるのかと思うのですが、更に何か工夫を加えなければいけないという状況が分かったところでございます。

■会長

恐らくここの産業としての観光は、渋谷の大きな目玉になるので、そうすると産業は環境をおもしろくするのではなくて、観光が渋谷をおもしろくするだと思います。このあたり前後関係考えてもらって。あと他に如何でしょうか。

■委員

15 ページの「産業振興」で、「こうしたビジネスの自由があればこそ、同時に「消費者が賢い」街でなくてはならないのです。」と言った時に、どうするのですかね。消費者が賢くなるのか、行政が賢い消費者を作るのか、主語は誰なんですか。それはその通りで、ビジネスが自由であれば当然消費者自体も選ぶことは必要だけど、それをこの部分で言うところなのか。ちょっと違和感があったということです。

■会長

これは、「こうしたビジネスの自由があればこそ同時に消費者は賢くなる街だ」、と言われると分かるんだけど、与条件にされると確かに今のような意見が出るかもしれないですね。ここは前後関係考えて。他はどなたか如何でしょうか。

■委員

14 ページの「文化・エンタテインメント」なんですけど、素人なので分かりにくいなと思ったのが上から2行目です。「未分化で、不定形で、それゆえ」っていう、「未分化で不定形」っていうのはどんな感じを言うのかなと、素人なので私には分かりにくいなと思いました。あとは面白いなと思いましたのが、7行目なんですけど「文化のスクランブル」というここの文章が面白いなと思いました。分かりやすく、イメージが湧くなと思いました。

■会長

ありがとうございました。この14ページの「文化・エンタテインメント」2行目の未分化の不定

形は何を言いたいのか、私も良く分からなくて、サブカルチャーっていう言葉はかなりいま広がっていて、サブカルチャーっていうと例えば原宿だとか、それからあるいは秋葉原とか、何かこう若者をベースにした、今まででは大したものではなかったものが盛り上がっている、みたいなことは分かるんだけど、未分化とか不定形って言われると確かに今の質問が出る。恐らくこれは別に素人とか関係なくて、皆がそう思うと思います。皆が分かる言葉でうまく言わないといけないんだけど。まず未分化って何なんですか。サブカルチャーを言ったんなら分かりますよ。メインカルチャーがあってサブカルチャーの場合は、まだこれからだから。

■事務局

そうですね。要は独自に分類できないようなものということで、こう書きましたけれども、不定形というの、実際生まれてみないと何がどういふものなのか分からないという表現なんですけれども、分かりづらいというのが非常によく分かりましたので、ここは改めて工夫させていただきたいと存じます。恐れ入ります。

■会長

我々の世代で言うとやっぱり「たけのこ族」から始まった、あのあたりの流れがあってね。全部サブカルチャーで来てますから。そのサブカルチャーがいま渋谷では本命になりつつあって、それが世界に出て行くかもしれない、って世界に行ってるんだよね、「カワイイ」がね。っていうあたりを言っているのであれば、それが分かった方が良い。それだけでなくて幾つかまたあるだろうと、渋谷駅周辺にも色々な出来ているというイメージがあるならそれを書いた方が良いんじゃないでしょうかね。他どなたか如何でしょうか。文化のスクランブル交差点は、これは今回のヒットですね。これは面白い。

■委員

14 ページの「文化・エンタテインメント」下から2行目なんですけど、「文化を世界に向けて公開しつづける。」と、その4行目くらい上には「世界に向けて絶えず発信」と書いてあるんですけど、公開は何か一般的に非公開のものを公開するような意味であって、消極でもないけど、上の発信とちょっと意味が違うような感じがします。発信の方が、より積極的というか、そういう風な表現になると思うんですけど。

■会長

確かにこの「世界に向けて絶えず発信していく」という方は分かるけど、その文脈を受けてるんでしょうね。だからここで公開っていうのは確かに言葉が違いますね。これもう一回考えてもらって。あと如何でしょうかね。産業系の方で何か。

■委員

産業の方もビジネスのスクランブル交差点で言う表現の方が合ってるかもしれないですね。

■会長

それはちょっと検討してもらって、あんまり使うと希少価値がなくなるので。大体よろしゅうございますかね。ではこれはまた後で、例えば未だに気になっている「福祉は、福祉を超えられるか。」は良いんですか。

■委員

変えていただいた方が良いです。

■会長

変えた方が良い。では後で説明してください。そういうことでまた後で聞きたい部分がありますけれどもまず次に向かいます。

「区政運営の基本方針」ですね。これをご説明お願いします。

④「6 区政運営の基本姿勢」について

■事務局

(事務局より資料「渋谷区基本構想等審議会答申(素案)」の「カテゴリ別未来ビジョン 「6 区政運営の基本姿勢」」を説明)

■会長

ありがとうございました。これから区としてどういう姿勢で区政運営を行っていくか、ということで、私の記憶では、他の区ではないようなとても模範的な積極的な内容なんですけれども、これは渋谷の伝統なんですかね。頑張ります、と言っているわけで、悪いんじゃないですかとは言いませんが、この中で特に言うことがあれば言っていただいて。お願いします。

■委員

ここまで見てきたものに物凄くダイバーシティ&インクルージョンというものが強く打ち出されているので、せっかくなら区政運営の方にもそういった要素をどこか一か所強く打ち出しても良いのかなというのを感じました。具体的に言うと 4 つ目の「■『職場』のお手本になります。」というところの第一段落の最後の 2 行「既成概念にとらわれないワークスタイル」と言ったあたりに恐らくは含まれてくるんだとは思いますが、ここは子育て中の女性であるとか障害者も働きやすいようにして、多様な人材で仕事をしていきます、っていうような、メッセージ性の高い文言に変えてしまっても良いのかなというか、ここまでの施策ともつながってくるのかなというのを感じました。

■会長

ありがとうございました。

■委員

私もこれ見てびっくりした。これは毎朝、区の職員さん皆で読むんですかね。非常に思ったんですけれど、教員の疲弊じゃないですけれど、これだけやっちゃうと区の人たちが結構大変じゃないかなと。例えばすばやく動ける集団になります、っていま区の方達ってクレームで動くのがメインで、すばやく動ける。企画を受け付ける窓口としてこういうを作りますというようなことを、基本構想で書くのが良いんですけれど。区の目標というか、すばやく動くっていうのをやっていくと明示すると「ここに書いてあるから、早く来いよ」という方もいらっしゃるんじゃないかなという懸念があるので、もう少しふわふわと記載してはどうですか。例えば、子供たちが将来渋谷区で働きたい、っていうような職場になりますみたいな感じにするなど。対大人向けの記載が多いので、基本構想で記載するのなら職員が20年後働いていく中で、20年後にここで働きたいと思わせるっていうのをもう少しやんわりと書くと、伝わりやすいかな。強制されているように強く見えちゃうんで、これ会社だったら嫌だっていう感覚があります。

■委員

委員が仰られたこともそうなんですが、司令塔みたいな組織を作って、それでその下にこういうこともやっていきます、って細分化された方が分かりやすいんじゃない。ひとつひとつの内容が部分に見えたんで、渋谷区としてコアになる記載が欲しいなと思いました。

■委員

例えば、渋谷区は福祉に力を入れて頑張りますというコンセプトの基本構想ができたとして、この基本構想をみて渋谷区で福祉産業をやりたいという企画書作成した際に、この企画書は福祉課に持っていけば良いのか、経営企画室に持っていけば良いのか、っていうことをここでもう少し分かりやすく書きちゃった方が良いかと思ったんですけれどどうですか。区政をどうやって運営していくのか、基本姿勢を記載するというよりは、担当する窓口がどこか示されていると分かりやすいかなと思います。

■会長

基本構想とって、今上位概念作っていますよね。区政運営も同じで基本姿勢なので、この後に、具体的にこれを実現するためにどうするかっていうのがズラッと出てくるわけなので、このレベルでは基本姿勢としています。具体的に動くための大本を決めてるっていう作業なので、自らを鍛えるとか謙虚でありたいとか、すばやく動くとか、職場として理想的であるっていうことを、上位概念としておきたいと言っていると私は理解しています。具体的内容が後から絶対出てきます。どこまで理想なのか分かりませんが、まず姿勢として出したいということだと。

■事務局

仰る通りでございます。大きな構成として、7つのビジョンがまずメインであって、これを達成するために我々はこういう風に臨んでいきますよ、という提言になります。実は「柔軟な組織」という言葉は20年前に作りました基本構想にも記載されています。それが本当に今実現できている

のかという非常に心許ない部分もあるんですが、改めてこちらにまた大きな方向性として置きたいというような考えでございます。

■委員

私は逆に保守的なんですけれども、あんまり行政官が疲弊しないように。行政で窓口になるとかなり色々なことを言われてしまう。そして組織で守っていかないといけない。例えば今後児童相談所が区に移管すると言っていますけれど、児童相談所のワーカーで虐待対応している人はクレームがたくさんきてすごく疲弊しているんですね。それを守らなくちゃいけないですね。住民と協働ならば、目的を合意して役割を合意する、と。要するに守れる部分を作ってあげないと全てのことに対応できないんですよ。病院や学校でも、色んなところでクレームに追まわられちゃっています。できないことはできないんで、それは合意の上で示すということで、ある程度その職業を守るという視点も不可欠であると思うんですよ。それについて企業は徹底していますよね。全部の人が信頼できると思うんだけど、そうでもない場合があった時には職員はどう体制を守っていくのかということのを是非入れる。そのためには合意をした上での役割を検討するとか、それくらいの文言を入れておいて、どっかで歯止めをかけておくということも私は必要だと思っています。結構疲れておりますね、行政の担当者なんか。以上です。

■委員

多様性、ダイバーシティというのがコンセプトにあると思います。それとここに書かれていないんですけど、例えばお客様主義みたいなのがセットになると、少数派の意見を全部拾って公園が全く使えなくなるみたいなことが日本ってすごく多い気がしていて、拾うべき少数派と、少数派を拾って全体が被害を被るということの境目が大事な気がするんですね。特に、区民一人ひとりの意見が大事だよというコンセプトを掲げていると渋谷区がそこに陥って逆に窮屈な街になるという可能性があります。そこら辺は考えていないと、仰るように区の方が疲弊するのかなという感じがします。できたら、ここに書き加えるのは難しいかもしれないですけど、必ず5時までに帰りますみたいなことを記載する。多分それが一番日本のこれから変わらなきゃいけないところで、労働時間のところは「あんたたち働け」みたいなところがある気がするんですけど、未来の働き方っていうのはもっと短い時間で効率的になっていって良いんじゃないかなと思います。

もう一つは将来的には恐らく政府というか、運営側というのは小さくなって非営利団体みたいなものが個別の湧いてくるニーズに対して対応してやっていくようになると思います。区政っていうのも巨大なNPOみたいなものだと思うんで、外部のNPOにどんどん外注したり、協力関係築いていきますというように、全部区の責任でやるんじゃなくて、市民参加っていうのはひっくり返すと問題は市民の責任でもありますよね、って突き放す姿勢も重要じゃないかなって感じがします。どの文章に入れたら良いか分からないですけども、外部との連携をとって、区の負担とコストを軽くしつつ、っていうのが未来っぽい感じがするかなと思いました。どこにいれたら良いのか具体的な話が出来なくて申し訳ないです。

■会長

今のお二人の話が出たので私も言いますが、こんな理想ばかり書いてないでもっと現実的なことを取組んでいかないと。渋谷区は分かりませんが、比較的多くの自治体で最大のテーマとなっているのは入社した若い職員が2~3年でどのくらい辞めるかと。最大のテーマはクレーマーですよ。マニュアルがあると思うんだけど、クレーマーがあつたら1時間電話で耐えろ、って指示してるわけですよ。そんなことやったら区政が止まるけど、最後は「税金もらってるんだろ」みたいなことで泣き寝入りなんですよ。泣き寝入りの中で職員が頑張っていたって良いことできないじゃないですか。もうちょっとうまく巧妙に、最終的には区民と一緒にやることと、それから多くの方が仰ったようにNPOをうまく区がサポートしてあげて、それで刺激してやっていくっていうパターンがあります。渋谷区なんかそれができる場所ですからね。そういうこと上手く書き込んでいった方が。全部区がやりますよっていう相変わらずのパターンだと自分で自分の首を絞めるといことが明らかなので。すぐ動きますなんて、言わなくて良い。昔は必要だったけれど、今はすぐ動くじゃないですか、区の人っていうのは。だからちょっと古いタイプの発想じゃなくて、新しいこれからの20年で、協働する形で区民と頑張ります、みたいな話の方が良いんじゃないですかね。

■委員

最初の■ですが、「基本構想で描かれたビジョンを実現するための大前提は、安定した財政基盤を確保すること。」とありますが、もし財政がなければこのビジョンが実現しないように捉えられます。もちろんビジョンの中には予算措置が必要なものもあると思いますが、今までの話の中では予算伴わなくてもできる部分もかなりあると思うので、大前提が財政基盤を確保することって、ビジョンを達成できない時の言い訳みたいになるような印象を受けました。それから二つ目の■の2行目の一番最後の「機関」、これが何を意味するのか分からない。

■会長

一つ目の財政基盤というのは特別区の限界があつて、法人税もらえませんから財政確保は簡単にはいかないので、これはあまり強く出すのはどうかと。

■事務局

この辺はどこの自治体も書くところでございまして、まずは財政基盤をしっかりしましょうねというのは、やはり私ども自治体としても基礎的なところなのかなと思って最初に書かせていただいたところでございます。他の自治体もここは書いてあるところなんでございます。

また、区民以外の企業さんだとかNPOさんだとか、そういったところとの協働っていうのは2つめの■の中に「区民をまず主体として考えますが、他の方々とも」という部分で書かせていただいています。よりもう少し分かりやすくその点を伝えられるような表現にしていこうかなと改めて考えているところでございます。

■会長

2つ目の■のタイトルが「もっとも謙虚で寛容な自治体」で、内容は違うので。区民とともに歩む自治体かなんかにしないといけないですよ。もっと気になるのは一つ目の■の最後の2行で、「『基礎体力』と『スタミナ』を維持するためにすべての職員が努力を惜しみません」って、こんな言葉いるんですか。脈略が分かりません。基本姿勢としてあっても良いけど、残業してでも全部やれってことでしょ。そこまで書くのかどうか。現実とのギャップがあまりないように書いていただいて。

■委員

多分、前の審議会でこういう議論が出ていたと思うんですけど、それは高度成長期の「なんでもやる課」っていう行政のスタンスですよ。今から見ると「なんでもやる課」って一番ムダなんですよ。逆に住民もやるし、NPOもやるし、企業もやる、と。その中でどう合意していくかということをしていかないと膨大な職員が必要となるんです。ですから、その発想を転換するんだったら、委員方が仰ったように、このイメージを変えた方が良いね。「なんでもする課」の議論はある意味で骨董品です。区民も苦勞しなきゃならない、という議論だと思います。

■委員

区政運営の基本姿勢が、そもそも基本構想等審議会のテーマで良いのかどうかという違和感が実はあります。結局、区の職員の方々が10年後、20年後にどういう風に生きがいややりがいを持って働いていかに直結するものですから、職員の方々の自発的な考え方だとか、それから行政サイドの色々な審議なり何なり場があった方が本当は良いんじゃないかという気がするんです。審議会の方で決めちゃいました、みたいにならないようにして欲しいなと思った。今回、自ら首が締まるようなテーマを挙げられた点については、私は感動を持って聞きました。大変なのを分かっている、あえて高い目標を挙げられたというのは素直に敬意を表させていただきます。ただ、やっぱり20年後実現できないと困るわけですから、ここは全ての職員の方々が納得できる場があった方が良いんじゃないですか。

■会長

ここはこれからの20年って新しい概念で記載してください。何でもやります、早くやります、みたいな姿勢じゃなくて、是非考えてくださいということによろしいですかね。では続きまして「長期基本計画の施策体系案」の修正について、事務局からの説明をお願いします。

(4) 長期基本計画大綱について

■事務局

(事務局より資料「渋谷区基本構想等審議会答申(素案)」の「長期基本計画カテゴリ別施策体系案」を説明)

■会長

これは今までやってきた施策体系についての中身の充実ということで説明がございましたけれども、何か抜けているとかあれば。

■委員

「計画の実現と持続可能な行財政運営」は、項目が細かすぎて大綱じゃないですよ。むしろ大綱とするならば、少しまとめていかないと、他とのバランスが取れないし、こちらは具体的になっていると思うんですよ。さっきの区政運営の基本姿勢は、根性論だから。適合するような内容にしないと。これに基づいてどうなのかっていう風を集約をしたうえで。但し、これは細かすぎるので、大綱っていうことに合うような内容にしていきたい。

■会長

他どなたか如何でしょうか。

■委員

21 ページ(D 防災・安全・環境・エネルギー)の「街の安全確保と快適性の向上」のところの「③緑と水辺空間の創出」は、かなり努力しないと渋谷の大都会で確保するのは難しいと思うもので、「重点！」マークをここに付けた方が良くないかと思ったんですが。他を見ると、「重点！」マークの付き方って意外と難しく、施策によって大事な「重点！」と分けちゃって良いのかなと気になっているところです。

それから 22 ページ(E 空間とコミュニティのデザイン)の「快適な交通環境の整備」の中に「②誰もが快適に移動できる手段の強化」ということでハチ公バスの運行体制の充実、があるんですけど、目的を入れた方が良くって、区役所と初台、笹塚方面との南北の交通路線が弱いのでこういったコミュニティバスを充実するとか、目的を入れないと意味が良く分からないなと思いました。とりあえず以上です。

■会長

今のところで思い出したんですけど、さっき委員が 12 ページのところ「防災・安全・環境・エネルギー」のところ「水と緑がないじゃないか」と、ご意見がありましたが、「空間とコミュニティのデザイン」のところじゃなくってやはり「防災・安全・環境・エネルギー」に入っているんですね。

■委員

③緑と水辺空間の創出っていうのは、「E 空間とコミュニティデザイン」の方に入れて欲しい項目なんですけれどね。

■会長

要するに快適な都市空間ということですよ。

■委員

③緑と水辺空間の創出は「防災・安全・環境・エネルギー」よりは「空間とコミュニティのデザイン」の中に入れて方が良さそうな感じがするんです。

■会長

「防災・安全・環境・エネルギー」に入っている理由は、大本のヘディングが街の安全確保と快適性の向上があるんで、快適なところに入ってきたんだろうと。仮に「空間とコミュニティのデザイン」に該当するものがあるんだとすればどこなんですかね。

■委員

歩行ネットワークにあえて、一番近いかなとは思いますが。

■会長

「コミュニティが育つまちづくりの推進」の中心に本当は水と緑が入っていると、というのが正解なんですかね。この場所の問題と、それに合わせて基本構想の方で、特に「防災・安全・環境・エネルギー」のサステナビリティの中身は、人のモチベーションしか書いてなくて、空間のことが全く入っていないということを前は言ったんだけどね。ここはまだ直っていないんで、合わせて見てもらえますか。人がどう頑張っても空間ができていないと活躍できないんですね。ここは是非検討していただきたいと思います。

あと他にどなたか何かございますか。だいぶ長くやってきて色々埋めてもらって大体みんな仰ったことが入っていると思いますので、ほぼ穴がなくなってきたという印象を受けますけれど。

■委員

「防災・安全・環境・エネルギー」の「街の安全確保と快適性の向上」になるのか分かりませんが、ドラッグの問題があるかと。違法ドラッグとか。現に保健所は取り組んでますから入れといた方が。もうやっている施策ですから。

■会長

「健康・スポーツ」の「生涯を通じた健康づくりの推進」のところに、「④健康危機管理体制の整備」があるので、この中の4番目に危険ドラッグについて入れれば良いのか。後は如何でしょうか。

■委員

長期基本計画の方は、想定している未来は何年後ですか。

■会長

これって今後 20 年ですよ。

■事務局

長期基本計画は 10 年です。

■会長

10 年経って実現しているものとしていないものがあるでしょうね。

■委員

自動運転は始まっているんですか。

■会長

自動運転は実験的には始まっているけど、渋谷区がやっているかどうかはまだ分からないのが 10 年後ぐらいですね。大体 2025 年ぐらいで無人運転が始まっているけど、渋谷区はまだどうですかね。それを盛り込むと交通体系のところでえらい大変な話になるし。まだ良いか。まだ実験段階なので。

他にどなたか。よろしゅうございますか。いずれにせよ後から思いついたら、またご意見ご記入シートがありますから、そこに記載いただいても。最終局面に来ていますので是非出してください。

■委員

全体を通してなんですけれども、私が欠席させて頂いた時に議論があったら恐縮なんですけれども、「まち」という表記の問題で、一応私も物書きをやっているものでいつも「まち」と表記する時に 3 種類で迷うんですね。今回この渋谷区で使っている街路樹の「街」という字のまち、「町」というまち、それから平仮名の「まち」。どれで表記するかっていうのも文章によって変えたり非常に悩ましいところなんですけれども、何となく字面でかっこいいのは「街」なんですよね。ただ正確な意味をとっていくと、「町」という方はどちらかと言うとエリアという面のイメージで、この「街」はは商店街とかストリートという意味合いの方が強くて、面よりは線というイメージの方が正確なんですよね。そうすると渋谷区というエリアを指す時にこの「彳」の「街」で全てを統一してしまえば良いのかなというのが今日ずっと気になっていて、ただ「町」という方のまちだとそれこそ恵比寿とか渋谷駅周辺の渋谷とか本町とか、そういうもう少し小さなエリアを指すようなイメージも抱かせてしまうし、どっちが良いのかなと思っていたりすると意外に平仮名の「まち」の方が良いのかな、とずっと悶々としていたんですけれども、そのあたり議論に上がっていただけません。

■会長

歴史的経緯から言うと、この「街」を使うのはもう古いんですよね。都市計画では、大体平仮名にしてますよね。この「街」って書きちゃうとかなりフィジカルなことになっちゃうんで、「まち」っていうと人のコミュニティも入っているという広い意味なんで、平仮名が一般的ですよ。

■事務局

実はこの辺は悩みどころの部分だったんですけど、いわゆる渋谷区はストリートカルチャーから発展したということから「街」という表記にしたところなんですけれど、皆様のご意見で平仮名の方が良いという方場合はその方向で修正を加えていきたいと考えてございます。

■会長

それで言うと7ページに宣言文がありますけれど、「ちがいを ちからに 変える街。」。もしこの「街」を平仮名に変えるなら今度は「ちから」を漢字にしないといけないとか、玉突きになるので、よく検討して頂いて。「ちがいを ちからに」の「ちから」を漢字にしておくで「変える街」の「街」は平仮名で良いかなとか。と、この漢字の「街」はちょっと固いんですよ。あんまり最近流行っていないんで、なぜ今回渋谷区が使ったのか分からないんですけど。検討いただいて、要望はあると思いますので、どちらが良いか。大体いま我々の分野では「まちづくり」っていうと「まち」は平仮名で「づくり」は「つ」に「」をつけて、そう書くんですよ。そういう流行があるんで、この「街」はどうかなという気はしますね。

■委員

私は漢字の「街」って違和感なくてですね。と言うのは市街地の「街」というイメージがあって、地元紙だとどうしてもこの漢字の「街」を書いちゃうと多分当てはまっていないと会長が言われる通り、平仮名でないと地元紙の都市計画って成り立たないと思うんですね。たまたま渋谷区の全域が中山間地域でもないし、かなり高密な都市機能が集積していますので漢字使っても違和感なかったんです。

■委員

平仮名の方が一般的だと思いますが、委員が仰った通り「渋谷らしい」って考えると、今の原案の漢字の「街」だと渋谷らしさが出て良いのかという気がする。

■会長

両方のご意見がありました。最終的にどう決めるかご検討ください。

この後説明あると思うんですけども、住民に対するパブコメやりますから、どう出していくかですよ。以上で本日の審議を終了しまして、事務局から今後の予定について説明をお願いしますか。

2. 次回に向けた連絡等

■事務局

本日も活発なご審議をいただきまして、感謝いたします。これまでの議論を踏まえて、事務局で素案を修正いたしまして、会長の方に、ご一任いただければと存じます。修正後の素案に基づきまして、7月14日（木）から4回に渡って行う予定の区民説明会や7月15日から28日まで実施する予定のパブリックコメントを実施することとなります。7月の審議会の開催はございませんが、事務局からお願いがございます。区民説明会ですが、机上当りでございますような日程で開催となります。各説明会に、お二人ずつ、審議会委員のご出席を賜りたいと存じます。本日、アンケートを机上当りに置かせていただいておりますので、ご回答をいただき、ご出席いただける方に、事務局の方から、御相談させていただきますので、よろしく願いいたします。事務局からは、以上です。

■会長

それでは、本日の会議はこれで終了とさせていただきます。皆様、誠にお疲れ様でした。

以上